

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・近隣の百貨店がリニューアルし、集客力が高まる。
		百貨店（営業担当）	・4月から市政100周年イベントが行われ、町自体がやや活気付く。
		スーパー（店長）	・米国テロや食品メーカーの牛肉偽装事件、流通業界の倒産等の影響も落ち着き、消費が回復する。
		衣料品専門店（店員）	・これから行楽シーズンや夏場にかけて人の移動や旅行が増え、それに伴う需要がかなり期待できる。買い控えが続いたため、その反動で単価の高いものが動く。
		衣料品専門店（総務担当）	・ミセス商品の売上が前年並みを維持し、ヤングものの売上が増加していることから、今後は消費がやや活発になっていく。
		高級レストラン（経営者）	・ワールドカップ開催に伴い、人の流れが良くなり、来客数が多少増えていく。
		高級レストラン（専務）	・4月中旬に鹿児島空港に新たな航空会社が参入するため、来客数が増えていく。
		高級レストラン（スタッフ）	・月を追う毎に、客の懐具合が良くなっているため、今後も売上が増加していく。
		テーマパーク（職員）	・例年だと行楽シーズンの後は落込むのだが、5月下旬よりワールドカップチームのサッカーキャンプがあり、関係者及びマスコミ300～400人が3週間程滞在する予定があるため、来客数が伸びていく。
		競輪場（職員）	・門司競輪場の閉鎖に伴い、これまでの来場者が他に分散され、同社の売上げも上がっていく。
	住宅販売会社（従業員）	・客のニーズに合わせた住宅建売をすれば問い合わせも多い。客の潜在意欲はあると思われるため、今後は少しずつ良くなる。	
	変わらない	スーパー（店長）	・デフレは今後も続く。特に身回品や日常商品についてはそうした動きが顕著にみられる。しかし、客も低価格商品に飽きてきたという感があり、今後は高品質の商品に需要がシフトしていく。
		スーパー（総務担当）	・客単価がなかなか上がらない状況が続いている。衣料品を中心にバーゲン品や特價品の動きはやや好調なもの、定番商品やブランド商品はなかなか伸びていない。この状況はしばらく続く。
		スーパー（経理担当）	・客数は増加するが、引き続き売手と買手の相方による客単価の下落が続く。
		コンビニ（経営者）	・経営しているコンビニ4店舗のうち1店舗に、酒販売の免許が下りた。一般的に酒と一緒に販売すると、酒ないの時よりも2割売上が増加するというのだが、1割程度しか増加していない。このような状況が今後も続く。
		コンビニ（店長）	・客が切りつめた買物をするため、客単価が伸びない。
		家電量販店（店長）	・レジ客数、レジ単価共に低下しており、滞在時間も短くなっている。この傾向はしばらく続く。
		家電量販店（店員）	・パソコン製造単価が上がっているが、メーカーは単価が上がった分を価格に上乗せするのではなく、パソコンの性能を抑えるという動きに出てきている。このように、販売単価は上がる様子がない。
		乗用車販売店（社長）	・新卒需要がまだあまり起こっていない。
乗用車販売店（管理部長）		・持っている車のうち1台を買ってほしいという客が多くなっている。この傾向はしばらく続く。	
乗用車販売店（従業員）	・先行き不安な状況で、客がローンを組むのを恐れたり、買うのを我慢したりする状況が続く。		
都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊予約や宴会レストランの予約状況をみても、変化があるとは思えない。		
旅行代理店（従業員）	・先月から単価や販売数量がほとんど変わっていない。		
旅行代理店（従業員）	・多くの企業で給料のベースアップがなく、ボーナスもかなり抑えられていることから、ファミリー旅行の需要が厳しくなる。		
旅行代理店（業務担当）	・ゴールデンウィークの国内旅行は例年並みの受注だが、海外旅行が伸び悩んでいる。		
通信会社（業務担当）	・4月より福岡で次世代携帯端末の発売が始まるが、今のところ予約が少なく、客も様子見の状況である。		

	観光名所（職員）	・4月の予約状況が前年並みにはいっておらず、先行きが不透明である。客単価を上げるなど色々な工夫をしなければならぬ。		
	パチンコ店（店員）	・ワールドカップや野球観戦等があるので、客の足がそちらに行き、売上が若干落ちる。		
	美容室（店長）	・今は、1年で一番忙しい時期であるにも関わらず来客数が減っており、先行きが懸念される。今後も厳しい状況は続く。		
	住宅販売会社（常務取締役）	・マンション業者の土地取得意欲が堅調であり、物件供給は大きな落込みがなく推移する。しかし、民間金融機関の融資条件が厳しくなるため、ユーザーの期待通りに金融支援が得られるかが不透明であり、また、業者間の格差も今後は広がっていく。		
やや悪くなる	商店街（代表者）	・4月は郊外に大型アミューズメントができ、これ以上良くなることは考えられない。		
	商店街（代表者）	・このところの食肉関連の不祥事（特に鶏肉問題）が、食料品店やスーパーを直撃して、売上減少に拍車をかけている。消費者の信頼回復にはかなり時間を要する。		
	百貨店（売場主任）	・大型店だけでなく、商店街の小売店の閉鎖も出てきている。この傾向はまだ続く。		
	百貨店（営業担当）	・ここ2～3か月、来客数が前年比97.8%と落込んできている。インポートバッグなど高額商品は良い動きをしているが、それが全体を押し上げるまでには至っていない。今後も厳しい状況が続く。		
	スーパー（店長）	・近いうちに地場大手スーパーが営業を始めるので、売上の状況は微妙に変わってくる。特に現在、前年比115%とほど伸びている同スーパーと近い店の売上が落ちていく。		
	衣料品専門店（店員）	・今後も消費者の低価格志向が続き、客数が伸びる要因が見当たらない。		
	その他専門店〔書籍〕（店長）	・市内で大型書店のオープンが相次ぎ、この先1年間は影響を受ける。		
	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊の予約状況は回復傾向にあるものの、一般宴会、婚礼の伸びが落ち込んでいる。		
	ゴルフ場（従業員）	・ゴルフ場の予約状況が、前年に比べて2割ぐらい落ちそうな感じで、予約があまり埋まっておらず、厳しい状況にある。		
		美容室（経営者）	・最近では、パーマよりもヘアカラーの客が多くなっているが、ヘアカラーは市販に手軽で低単価のものが出てきており、来店せずに自分で染める人が増えている。	
悪くなる	スーパー（店長）	・4月に、近隣に大型の競合店がオープンするため、影響を受ける。		
	衣料品専門店（店長）	・商店街は客が閑散として活気が全く戻っていない。		
	高級レストラン経営者	・当店では、高級食材の仕入をやっているが、天然活魚の仕入単価が年々安くなっており、今後も高くなる見通しが無い。		
	スナック（経営者）	・スナックは、節約する対象の一番手になる。客が次に来店するまでの間が長くなる傾向にあり、どれだけ多くの客を持っているかが生き残りの最大の要因になる。		
企業動向関連	良くなる	-		
	やや良くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・受注案件の数が増えてきている。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・大手の半導体関連企業の動きが非常に活発になってきている。また、量的な面も多少上向いてくるので、今後はやや良くなっていく。	
		精密機械器具製造業（経営者）	・新規の見積件数が少し出てきている。また、取引先の来年度の生産計画が少し増えそうだという情報がある。	
	変わらない	農林水産業（経営者）	・行楽シーズンを控え、消費に期待するところが大きいですが、食肉加工メーカーの表示偽装問題などが落ち着かなければ何ともいえない。	
		建設業（従業員）	・積算件数や積算案件の実績をみても、景気回復の兆しが感じられない。	
		輸送業（従業員）	・各メーカーが通常の商品におまけを付ける等のキャンペーンを考えるなど、必死になっている。	
		輸送業（総務担当）	・年度末になっても荷動きが増えていない。半導体はやや上向きとはいっても微増であり、ほとんど影響はない。しばらくは現状のまま推移する。	
			広告代理店（従業員）	・取引状況についていえば、新年度に向けて売上減少から広告予算を減らすところがいくつかみられる。

		経営コンサルタント	・消費者の嗜好が焼酎に移行しており、特に清酒業界が伸び悩み、大半が資金繰りに困っている。
		その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	・依然として設備投資を見合わせるという動きがみられる。
	やや悪くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・仕事量が縮小していき、それに対して業界内の価格競争が熾烈になってきている。これから仕事量の減る夏場に向かって、業界のルールもかなり乱れているので、営業的には厳しい状況に入っていく。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・外食産業が使用する食器も中国産が多くなり、焼き物業界では厳しい状態が続く。
		広告代理店（従業員）	・折り込みチラシの代理店をやっているが、2～3か月先は得意先からの受注もだんだん少なくなっている。
	悪くなる	不動産業（従業員）	・賃貸ビルの入居率が低下している。特に、中古物件の空室が増えており、賃料水準も低下している。今後もこの傾向は続く。
		経営コンサルタント	・熊本は全国的にも一番、金融機関に対する信用が失墜しており、金融面での問題が市場に出てくる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ＩＣ産業の雇用が出てくると思われる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・新入社員の採用はかなり控えられており、今後、雇用を増やしていくという動きは出ない。
		人材派遣会社（社員）	・昨年の下期から受注が減少している。各企業の中で実績を下回る予算が組まれており明るい状況が見出せない。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	・アンケート調査結果によると、来春の新卒の採用計画は0人もしくは未定という会社が4～5割に達し、慎重な姿勢が浮き彫りとなっている。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・今後リストラ等を予定している企業が見受けられる。
		職業安定所（職員）	・4月1日よりペイオフ制度が導入され、中小零細企業は今までよりもっと厳しくなる。
		職業安定所（職員）	・200人の大量解雇があった関係もあるが、前年同月比で新規求職者が3か月連続、有効求職者が5か月連続で増加している。新規常用求職者のうち、事業主都合による離職者が6か月連続で前年比増となっている。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・建築業者、土木業者の方々が仕事がなく、自宅待機という形になっている。
	悪くなる	職業安定所（職員）	・大量離職者の発生（大型百貨店、ＩＣ関連企業）で、有効求人倍率が低下する。